

第1回 吹田操車場跡地まちづくり計画委員会 議事要旨

日時：2006年11月20日（月） 10：30～12：00

場所：ホテル阪急エキスポパーク 緑樹

出席委員及びオブザーバー：11名（うち1名代理）

開会 事務局より、吹田操車場跡地まちづくり計画委員会の開会が宣言された。

（会長選出までの間、議事並びに司会進行を事務局が行った。）

1. 挨拶（吹田市阪口市長・摂津市森山市長）

吹田市阪口市長あいさつ

- ・本日の「吹田操車場跡地まちづくり計画委員会」の開催に関して、御多忙の中、御出席を賜ったこと、本委員会の委員就任に快くお引き受け頂いたことに感謝している。
- ・吹田・摂津両市に広がる吹田操車場の跡地利用については、昭和59年(1984年)に操車場機能が廃止されて以来、22年の長きに渡って、協議・検討が行われ、様々な課題への対応を図るべく関係者間での議論が積み重ねられてきた。
- ・平成18年2月には、大阪府の御指導も頂き、関係5者が「吹田貨物ターミナル駅（仮称）建設事業の着手合意協定書」に同意したことから、北大阪地域に残された最後の一等地でのまちづくりが動き出している。
- ・また、平成18年11月1日には、当委員会の委員でもある都市再生機構と鉄道運輸機構が共同で「大阪駅北地区先行開発区域の開発事業予定者」の決定を発表している。
- ・吹田操車場跡地は、この大阪駅北地区とは密接な関係を持っているが、吹田操車場跡地でのまちづくりは、大阪駅北地区とのすみわけを図り、北大阪地域のみならず、関西圏における「まちづくりのリーディングポジション」としての地位を築きたいと考えている。
- ・今日の委員会にご参加頂いた委員の皆様は、非常に高い専門性と広域的な視点を有しており、吹田操車場跡地におけるまちづくりに助言を頂くために、この上ない方々に参加いただけたと大変感謝している。

摂津市森山市長あいさつ

- ・これまで長い時間をかけて、吹田操車場跡地に関する土地利用についての検討を行ってきたがこの度、大阪駅北地区（梅田北ヤード）の開発事業者が決まり、吹田操車場跡地への貨物駅移転問題に関して、一定の決着が見られた。
- ・貨物駅の次は残る吹田操車場跡地のまちづくりのについての検討が必要である。
- ・これまで、吹田市、摂津市それぞれにおいて、まちづくりのあり方について検討をしてきたが、当地区の開発が、北大阪地域における開発であることを踏まえ、今日までの両者の取り組みを精査していただき、よりよいものとしていただきたい。

2. 出席者紹介

- ・事務局より、委員会に出席した各委員とオブザーバーの紹介が行われた。
- ・本日欠席の山内委員と高橋委員についても紹介。

3. 吹田操車場跡地まちづくり計画委員会について

- ・事務局より、委員会の設置と設置要項について説明。

委員会設置の背景と趣旨について

- ・当委員会の設置趣旨としては、吹田市・摂津市併せて、吹田操車場跡地におけるまちづくりの基本的な方向性についての検証作業とまちづくり計画の策定を目的としている。

設置要項について

- ・第1条設置についての要項を説明。
- ・第2条所掌事項について説明。
 - 吹田操車場跡地の土地利用方策、施設の立地・誘導の方針に関する事
 - 吹田市正雀下水処理場及び摂津市クリーンセンターの今後のあり方に関する事
 - その他、上記に関連する重要な事項
- ・第3条委員会の構成について説明。
 - 会長、副会長、会計監査を置くこと。後ほど選出する。
 - 委員任期は2年とし、再任を妨げないものとする。
- ・第4条事務局について、吹田市及び摂津市が担当することを説明。
- ・第6条促進協議会の位置づけや構成について説明する。
 - 計画委員会の名簿及び促進協議会の名簿について説明。

4. 会長選出

- ・事務局より、会長選任についての説明を行い、会長の自薦・他薦について意見を求める。
 - ・篠崎委員より、これまでの吹田操車場跡地のまちづくりに積極的に関わっている吹田市長の阪口委員を推薦する意見が出された。
 - ・篠崎委員の推薦に対して、出席委員の同意を求めたところ、「異議なし」の意見が全員より出され、阪口委員が会長として選出された。
- (会長が選任されたことにより、委員会の司会が事務局から阪口会長に交代した。)
- ・副会長と会計監査については、阪口会長から以下の委員が指名推薦された。
 - 副会長として、摂津市の森山委員を推薦する。
 - 副会長として、大阪大学医学部附属病院の荻原委員を推薦する。
 - 会計監査として、都市生活研究所の篠崎委員を推薦する。
 - ・それぞれの指名推薦に関して、「異議なし」の意見が出され、4名の役員が選出された。

5. 議事

今後の進め方

- ・ 会長より、当委員会の今後の進め方についての説明を事務局に対して求めた。
- ・ 事務局より、資料5「吹田操車場まちづくり計画委員会の進め方について」に基づいて、説明が行われた。
- ・ 計画委員会が出された意見等を元にして、促進協議会において具体案を検討する。その案に対して、再度計画委員会に諮るという流れで進めたい。
- ・ 来年夏頃にエントリーコンペの実施を予定。当面は、コンペ実施に向けての方針を検討する。
- ・ 会議の公開について、事務局より以下の内容を提案。
 - 計画委員会及び促進協議会は、公開を原則としたい。
 - 公開の方法については、会議録による公開。
 - 会議録は、会議全体の内容がわかる形式とし、会議で委員からの忌憚のないご意見をいただけるよう配慮する。
 - 報道機関による傍聴については、住民への情報提供に協力していただくという観点から、傍聴を認めるかどうかについては、その都度検討する。
 - 本日の委員会については、報道機関が数社来ている。

< 以上、事務局説明。 >

- ・ 以上の内容を踏まえ、会議の進め方と公開方法についての議論をお願いしたい。
- ・ 会長より、会議の進め方と公開方法に関する事務局提案についての決議を諮った。
 - 特に委員からの意見がなく、事務局提案が承認された。
- ・ 会長より、当委員会要項第7条の規定に従い、当委員会の会議の公開に向けて、速やかに適切な対応を行うように指示が出された。
- ・ 会長より、本日の委員会に関して、報道機関に対する公開を認めるかどうかの決議を諮った。
 - 特に委員からの意見がなく、本日の委員会について、報道機関に対する公開が承認された。

吹田操車場跡地のまちづくりについて

- ・ 事務局より、資料6「吹田操車場跡地のまちづくり概要」について、パワーポイントを用いて説明した。
- < 以下、吹田操車場跡地のまちづくり概要 >
 - ・ 吹田操車場跡地の位置、面積、概要、交通状況について
 - ・ 吹田市及び摂津市の概要と特徴、市街地整備の状況について
 - ・ 吹田操車場跡地開発に関する経過について
 - ・ 吹田操車場跡地におけるまちづくりに関する考え方について
 - 「緑と水につつまれた健康・教育創生拠点」
 - 計画地の特性を活かすまちづくり、岸辺駅の周辺環境を活かすまちづくり、個性あるまちづくり、緑をもたらすまちづくり
 - ・ 導入施設と配置イメージについての説明
 - 4つのゾーニングと、それぞれの導入機能のイメージ
 - リザーブ用地としての正雀下水処理場について
 - リザーブ用地を含めると、全体で27.5haのまちづくり
 - ・ まちを支える基盤施設についての説明
 - 駅前広場や南北自由通路、地区内に整備される道路、緑の遊歩道についての整備イメージ
 - できるだけ緑を多く確保したまちづくりの実現
 - ・ 開発スケジュールについての説明
- < 以上、事務局説明。 >

<以下、各委員より、現在のまちづくり案についての意見が出された。>

(阪口会長)

- ・吹田市と摂津市両市にまたがる、まちづくり用地は約23ha、本市においては14.4haの面積がある。
- ・まちづくり用地は、東海道線という国土軸に沿い、今後南北軸の整備も期待される交通至便のロケーションにあり、北大阪全体の発展を牽引するポテンシャルを有していると考えている。
- ・かつて吹田市は、「東洋一の操車場のあるまち」と呼ばれた時代があった。今度は、その跡地を新たな市のシンボルとして再生する、という構想を持っている。
- ・市の全域が市街化された吹田市において、この吹田操車場跡地は一から新たにまちづくりに取り組める最後のまとまった用地として、非常に貴重な用地である。
- ・昭和59年(1984年)に吹田操車場の機能が廃止されて以来、22年に及ぶ市民の想いが幾重にも積み重なった、我々にとっては特段に想いの詰まった再開発用地、都市整備用地である。
- ・ここに至るまでの、先人のご苦勞や大きな期待を持っている市民の想い、これらの熱い想いを自らの想いとして、我々はこれまで、この課題の解決に取り組んできた。今、その道のりを思い返すと、私はこの用地がかけがえのないものと再認識している。
- ・この地域の近隣には大阪大学、関西大学をはじめ、国内外においても有数の文化・学術研究機関が集積している。これらのポテンシャルを最大限に活かし、まちに新たな活力と賑わいを生み出すような計画を立てることが、最も有効的な活用方法と考えている。
- ・市民意見としては、以下のような意見が多くあげられる。
 - 「あそこに行けば、リフレッシュされる。」
 - 「身も心も健康になれる施設が揃っている。」
 - 「元気になれる。」
 - 「病気が予防できる。」

これらの意見に答え、全国から多くの人が訪れるまちにしたいと思っている。

- ・まち全体のイメージとしては、高度な研究機能が集積する高機能都市の創出以外に、縄文の森や里山、桜並木などに囲まれた、「森の中の高機能空間」というイメージを持っている。
- ・将来、万博公園と並ぶ吹田市南部の環境シンボルとなり、地域経済、地域文化、地域福祉の共存調和する、21世紀のまちづくりモデルとなることを願っている。

(森山副会長)

- ・摂津市域におけるまちづくり可能用地は約8.6haであり、本市の行政区域からみても非常に大きな割合を占めるものであり、東海道線という国土軸からも非常に大きな影響を及ぼす地域である。
- ・当地区は北大阪で最後に残された広大なまちづくり用地であり、摂津市のポテンシャルを引き上げるだけでなく、摂津吹田両市一体となったまちづくりを行うことにより、北大阪を牽引する存在にもなりえるものと考えている。
- ・摂津市においては、現在南千里丘地区において、阪急京都線の新駅設置及び医療や福祉の公共施設の再整備を、市を挙げて進行させているところであり、当地区の施設配置には、行政機能及び財政的にも有効な計画を考える必要がある。
- ・摂津市は全域が平地であり、山間部や丘陵地がない地形特性で、市民が緑に触れる機会が少ないことから、まず、緑を中心とした環境づくりを考えたい。その象徴として、本市域には吹田操車場跡地を貫く約3kmにも及ぶ緑の遊歩道と連携した公園を設け、総合計画にも示されているスポーツ・レクリエーション的な活動だけでなく、周辺地域からの避難地としても活用できるものとしたい。
- ・吹田操車場跡地を一体的なまちとしてみた場合、この核となるのは、JR岸辺駅前であることは確かである。
- ・吹田市の方で核機能として、教育や医療といった施設を考えていることから、その核施設を含めて相互利用が図られる形態が最も有効的な活用方法と考える。
- ・吹田操車場跡地のまちづくりを考える上で、隣接する下水処理場の取り扱いは、非常に大きな

課題である。

- ・摂津市のクリーンセンターを含めて、この処理場については、活用方法についての対応が求められていたが、今回、吹田操車場跡地のまちづくりが行われるにあたり、土地利用のあり方について、吹田市の意向確認の上、一緒に含めて検討を行うものとしている。
- ・下水処理場の課題については、跡地利用の推進を図る上で、避けては通れない問題であるが、吹田操車場跡地のまちづくりを良い機会と捕らえて、検討を進めたい。
- ・これまでの吹田操車場跡地への梅田貨物駅移転に関しては、様々な意見があり、市民とのコンセンサスの形成に苦勞をしてきている。この地区においては、1 + 1は2ではなく、3にならないと市民には納得してもらえない状況にある。
- ・この吹田操車場跡地は、摂津、吹田の両市にまたがるものであり、市の端部でもある。行政としては、個々の開発として捕らえるのではなく、両市一体となったまちづくりを行うことにより、両市市民、ひいては北大阪地域全体の利益につながるものとして検討を行いたい。

(栗山代理)

- ・これまでの計画を見せていただいて、非常に完成度が高い計画であると感じている。その中であえて、辛口のコメントをさせていただきたい。
- ・まちづくりのコンセプトに関して、反対ではないが、説明の中で全国的な集客を図りたいとのことであった。医療健康、教育、環境などは近年の都市開発の中で頻繁に取り上げられるテーマであり、それらの競合状況も激化している。
- ・ハードの整備を図るにおいて、もう一工夫が必要なのではないか。導入機能についてのマーケティング調査も必要であると思う。計画の実現時期までには、まだ時間があるので、しっかりとした目玉づくりを行ってほしい。
- ・我々関西経済連合会も、関西全域の視点からの情報提供や意見を述べていきたいと思う。

(荻原副会長)

- ・少子高齢化が進む中で、このまちづくりは次の100年、次やその次の世代に対しても、よかったと思われるまちづくりが必要である。
- ・コンセプトは高齢者にやさしい、子供にやさしい、健康、美容、長寿、福祉、こういったものが機能として一体的に取り入れられることが重要であり、これらは構想として盛り込まれている。
- ・これらのコンセプトを有効に機能させるために必要なものは環境である。他の地区の開発でも同様の開発が行われており、差別化を図るためにも環境は重要である。
- ・地区の中に公園をつくるという話があったが、「北摂パークタウン」として、敷地全体が公園であり、その中に施設があるというような考え方で全体構成を図れないか。

(江川委員)

- ・20世紀型のまちづくりから、次の100年を見据えた空間デザインや環境のあり方が市民も含めた議論が求められており、重要な局面を迎えている。
- ・全体像を次の100年を見据えた環境に配慮した視点で見直していく必要がある。
- ・計画提案の中の図案に貨物駅の表現を白紙としたものがあるが、こういう表現は全体像を考える場合においてありえないことである。都市デザインとしては、これも含めて、市民に受け入れられるものを目指した議論が必要である。
- ・30年前に東京の大学において、修士設計として吹田操車場跡地を取り上げたことがあった。これも何かの機会と捕らえ、いいものになるよう取り組んでいきたい。

(篠崎委員)

- ・この会場(ホテル阪急エキスポパーク)に来て感じたことだが、「人類の環境と調和」をテーマにしていた1970年の万博から時間が経過し、近年の愛知万博やハノーバー万博においても、テーマは環境・成熟となっている。太陽の塔が作られた頃はエネルギー一杯の時代環境と、現在の少子高齢化・成熟化社会における今回の開発との違いを再認識した。
- ・現在の少子高齢、人口減少化社会の中で、いかに都市の魅力をひきだすか、その起爆剤は何かということを考えたいと思っている。

- ・荻原先生が言われた「パークタウン」、健康・福祉・医療・教育・文化・環境これらのテーマの重要性は認識しており、考え方には賛同する。中でも教育と文化を私は強調したいと思う。
- ・金沢は吹田と摂津を合わせた位の人口（約40万人）の都市だが、金沢21世紀美術館は開館後1年わずかの間に、200万人程の入館者があったと聞いている。
- ・美術館として大規模なものではなかったが、開設以前より、プロの運営者により、綿密に計画が練られ、子供たちの笑顔があふれる美術館にしたいという想いから作られ、文化のソフトパワーを確認した。
- ・この広大な地区のまちづくりを全体として、緑・教育・文化・教育それぞれのテーマで満たしていくということと、ハードだけでなく、計画段階からのソフトとして、超一流のものを作ることが重要である。
- ・人口減少時代の中で十分な需要が見込める訳ではない。作っていく過程の中で時間をかけて検討を行い、一つの魅力的な施設をつくることにより、周辺に人が住んだり波及したりする「Step by step」のまちづくりを展開していくべきだと考えている。
- ・北ヤードとの関わりとして、関西以外の方に、北ヤードと吹田操車場跡地、これらの素晴らしいまちづくりが、こんなにも近接して位置しているということをアピールできるものとし、それが、関西への来街を促す、共鳴を呼ぶようなまちづくりになることを期待している。

（布村委員）

- ・ローカルニーズと広域的なニーズの整理及びデザインが重要であると思う。それが、地域の方にも理解を頂けるものにするためにも必要である。
- ・大阪大学の立地や万博公園、こうした地域資源と当地区の関係性があるのかないか、大阪における役割として、どのようなものがあるのか、これらの点を整理していただければ、いいものになると思う。
- ・どこでもあるような施設でなく、どんと森ができるとか、半端ではない、思い切った計画にしてほしい。それらの実現にむけては様々な課題があると思うが、協力できる部分に関しては、協力していきたいと思う。

（梶本委員）

- ・吹田操車場跡地のまちづくりについては、この地域における重要課題であると認識している。
- ・大阪府としても、北大阪に残された貴重な空間であり、新しい都市拠点となるポテンシャルを有していることから、両市と連携して魅力のあるまちになるよう協力していきたい。
- ・現在、吹田摂津両市及び関係機関を含めて、事業内容や事業手法、事業主体など、事業の具体化に向けた検討を行っているところであり、解決すべき課題もいろいろあると思うが、できるだけ、洗練されたいい計画になるよう努力していきたい。

（嶋田氏：オブザーバー）

- ・これまでに全国の様々なまちづくりを行ってきているが、当地区のまちづくりにおいても、吹田・摂津両市の熱い想いにお答えできるよう、最大限の努力と協力を行いたいと考えている。

（松岡氏：オブザーバー）

- ・我々はその貨物駅を利用させていただく立場であり、地元のまちづくりへの協力を行うとともに、市民の方に受け入れてもらえるための努力を行っていききたいと考えている。
- ・スケジュールとしては、平成22年度までに貨物駅整備や関連施設の整備を行っていくことになる。

（宮澤氏：オブザーバー）

- ・吹田操車場は、我々が関連する貨物駅再整備に関して、最後の大きな案件となる。我々はその貨物駅を利用させていただく立場であり、地元のまちづくりへの協力を行うとともに、市民の方に受け入れてもらえるための努力を行っていききたいと考えている。
- ・我々も傍観者ではなく、いろいろなご意見など賜りたいと考えている。

（会長）

- ・広い観点から様々な意見を頂戴した。広域的視点とローカルな視点のすみわけに関する問題、梅田貨物ヤード開発とのすみわけに関する問題。緑・文化・健康・教育などのテーマに関して

の独自性の確保。これらの貴重な意見を踏まえ、今後の検討を行っていきたい。

- ・今日の意見については、12月1日の促進協議会でもご披露をし、次回の委員会でも計画案の検討に反映させていただきたいと考えている。

6. その他

- ・事務局より、次回委員会の日程調整についての説明。
- ・吹田操車場跡地の現地見学についての説明。

- ・会長より、閉会の宣言
(委員会終了)